

二〇二四年度 入学試験問題 (前期・A日程)

国語

注 意 事 項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 二、解答用紙は、A(マークシート方式)とB(記述方式)の二枚ある。監督者の指示があったら、AとBの二枚の解答用紙の所定の欄に受験番号と氏名をそれぞれ記入し、試験開始の合図で問題にとりかかること。
- 三、解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 四、問いごとに、A(マークシート方式)かB(記述方式)かを指定しているので、間違えないように記入すること。
- 五、解答用紙の欄外には何も記さないこと。
- 六、試験時間は、九〇分である。

【一】 次の【A文】【B文】は、いずれも小島英俊著『旅する漱石と近代交通』からの抜粋である。夏目漱石は、学生時代からの親友で、当時満鉄の総裁だった中村是公の誘いにより、一九〇九年（明治四二）九月二日から一〇月一六日まで約一カ月半、満州（中国東北地方の旧通称）と朝鮮を旅行した。【A文】は漱石が船で日本から満州に渡るときのこと、【B文】では「近代交通」に関連した作家の文章が取り上げられている。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【A文】

それでは漱石の『満韓とところどころ』や『日記』を中心に漱石の行程を辿^{たど}てみよう。日本への出張のあった是公は漱石をつれて一緒に満州に帰るつもりであったが間に合わず、一足先に満鉄に戻り、漱石を待つ格好となった。大連^{だいにん}に向かう鉄嶺丸^{てつれいまる}に漱石が乗ると、その事情を知らないのか、大阪商船の副社長、船長、事務長らから「中村総裁とご一緒のはずでは？」と何回も聞かれてしまう。満鉄総裁がそんなに地位が高く、注目されているのかと驚いた漱石はいかにもおもしろく書いていた。

こうみんなが総裁総裁と云^いうと是公と呼ぶのが急に恐ろしくなる。仕方がないから、ええ総裁といっしょのはずでしたが、ええ総裁と同じ船に乗る約束でしたがと、たちまち二十五年来用い慣れた是公を儉約^{けんやく}し始めた。この儉約は鉄嶺丸に始まって、大連から満州一面に広がって、とうとう安東県を経て、韓国にまで及んだのだから少からず恐縮した。総裁という言葉は、世間にはどう通用するか知らないが、余が旧友一中村是公を代表する名詞としては、あまりにえら過ぎて、あまりに大袈裟^{おおげさ}で、あまりに親しみがなくなって、あまりに角が出過ぎている。いっこう味がな^aい。たとい世間がどう云おうと、余一人はやはり昔の通り是公是公と呼び棄^すてにしたかったんだが、衆寡敵^aせず、やむをえず、せっかくの友達を、他人扱いにして五十日間通して来たのは遺憾である。

（『満韓とところどころ』二二）

しかし、大連への上陸直後から、漱石は言葉だけではない「総裁」の威光を見せつけられる。立派な公用馬車に迎えられ、豪壮な総裁公邸に連れていかれたのである。

【B文】

さて、私が心惹かれる作家を二人挙げよといわれたら、おそらく「夏目漱石」と「林芙美子」を挙げるであろう。苦学はしたが、世の中のエリートに上り詰めた漱石と、苦難の中から這上がり、一生庶民の代表を自負した芙美子の経歴は対照的である。そんななかではあるが、私は二人を天才的作家だと感嘆するのである。かたや理知的天才、かたや感覚的天才として対照的である。漱石の天才は文章の筋を追いながら感嘆するのに対して、芙美子の天才は、文章中のたった一語、二語で読者の琴線^アに強く触れてくるのである。

そんな二人の文章を対比してみよう。まずは二人とも乗船した大阪から大連に渡る連絡船の船中の描写の違いである。前出した、一九〇九年に鉄嶺丸の一等船室に乗ったときの漱石の述懐を想い出して頂きたい。それに対して、『放浪記』の印税がやっと入った芙美子が三〇年に初めての海外旅行として満州に渡ったときの三等船室についての記述である。

鋸^{のこぎり}で歯を刻むような、行き詰りを感じ、うんうん唸^{うな}っていた内地^{*}での私が、地図の上でひろった中国のあの漠々と野方^{のほうざ}図もない広い面積を見ますと、ひょいとしたら、あんなに大きいのだから、片隅ぐらいこの小さな女にukれないともかぎらないと、不思議な秋夜の空想から、旅立ちをケツイして、ウラル丸の焼けつくような船室に、何日か私は海と語りながら遠い中国の景色を空想していました。

「行ってもた、行ってもた、皆笑^{わら}うてる間に、皆行ってしまうよった」

大阪者の子供が、三等の小さな窓から海を眺めて、こんな事を唄^{うた}っていました。なるほど、皆行ってしまった。日本の波止

場も日本の空も——。(中略)

群れた女の酔っぱい体臭！ 汐しおの匂い、干大根ほしだいこんと油揚げ、* 南京米なんぎんまいに潮風しおふう呂、ああ拾九円の旅愁です。

(林芙美子『哈爾濱散步』ハルビン)

私が感動するのは、例えば「片隅ぐらいこの小さな女にくれないとも」という表現、それから「大阪者の子供が……」という件くだりはひよっとしたら芙美子の創作のような気がしてならない。実は芙美子の不安をこの子どもに代弁させているのではないだろうか。それにしても自然と読む者に感情移入させてしまうではないか。

『満韓ところどころ』でも『日記』でも漱石は満州の大地をほとんど描写していないが、芙美子は大連から長春まで満鉄の急行「は」とに乗ったときの食堂車cの情景を実にうまく表現している。

太陽だろうか月なのだろうか！ 野原と空が赤く燃えていて、黄昏たそがれの森の彼方かなたに、玉転がしの様に陽が落ちています。「夕陽です」食堂車でお茶を飲んでいる私の耳に、こんな優しい言葉が聞えました。振り返って見ると、食堂の接客係さん、露西亞ロシヤの女性だけれど、日本語が大変うまい。むきだしの白い腕に産毛うぶげが金色に光っていました。

(中略)

満州で強いものは、人間よりも自然です。どこへ行っても果てしのない空と野原、ところどころの森、鉄道の沿線には、*、い、い、い、い今こうりゃんが茶色に実のつっています。

(林芙美子『哈爾濱散步』)

ここでも「むきだしの白い腕に産毛が金色に光っていました」という部分的な表現によって夕陽の射さし込む食堂車内全体の雰囲気きをいかにも髣髴ほうふつさせてくれるのではないか。

さて、漱石が立身出世して乗るようになった豪華列車の象徴が、東海道線の最速列車の一等展望車^{*}であろう。この車両を晩年の漱石が関西に向かう際に愛用していた。まさにこの豪華車両を三島由紀夫が『春の雪』で描いていたのである。

新橋・下関間の特別急行列車は、朝の九時半に新橋を^た発ち、十一時間五十五分で大阪へ着くのである。

(中略)

列車が展望車の欄干^イを見せて、光りの帯を縫いながら、重々しく後尾からホームへ入ってきた。(中略)
窓外に鋭い呼笛^{ふびし}がひびいた。聡子は立上った。(中略)

「もう汽車が出るわ。お降りにならないと」

(中略)

「清様^{きよさま}もお元気で。……ごきげんよう」

と聡子は端正な口調^ウで一氣に言った。

^d清頭は追われるように汽車を降りた。折しも腰に短剣を吊^つり五つ釦^{ボタン}の黒い制服を着た駅長が、手をあげるのを合図にして、ふたたび車掌の吹き鳴らす呼笛がきこえた。

かたわらに立つ山田を憚^{はば}りながら、清頭は心に聡子の名を呼びつづけた。汽車が軽い身じろぎをして、目の前の糸巻の糸が解^{ほど}けたように動きだした。聡子も、二人の夫人も、ついに姿を現わすことのなかった後尾の欄干が、たちまち遠ざかった。発車の勢いのよい煤煙^{ばいえん}が残されて、ホームに逆流し、あたりは、荒^{すさ}んだ匂^{にお}いに充^みちた時ならぬ薄暮^eが立ちこめた。

(三島由紀夫『豊饒^{ほうじょう}の海(一) 春の雪』一九六五年。情景の設定は一九二二年頃)

一九六五年に書かれたこの小説は大正初頭を描いているのであるが、一九二二年はまさに東京・下関間に特別急行列車である一・

二列車がデビューしたときであった。この列車のために国鉄では木造ではあるが豪華な専用客車を新製して、前年輸入したばかりの最新型のSLに牽かせた。^{*}新しい大きな東京駅ができる直前の頃であった。新橋駅は行き止まり式の構造であったので、最後尾に連結されたデッキ付き一等展望車が機関車に押されてホームに入ってきたのである。松枝侯爵の一人息子・清顕と綾倉伯爵の令嬢聡子は幼馴染みの美男美女で、年頃になるとお互いに惹かれ合っていた。ところが清顕のちょっとした強情と美意識によって大変な行き違いが起きてしまう。京都の尼寺に出家することになってしまった聡子を無念の清顕が送りにいったシーンである。

こんなセレブの列車と対照的だったのが、芙美子が女一人で初めてヨーロッパに向かった際の国際列車の三等車であった。ここでも

f

と喝破する芙美子の筆致は冴えわたっている。

^エ（略）だけこの汽車の三等は、まるで一ツ家族みたいなのはどうした事でしょう。長閑で、軽口屋が多くて、いつまでも朗らかな笑声が続いています。――無産者の姿というものは、どんなに人種が変っていても、着たきり雀で、朝鮮から巴里まで、皆同じ風体だなと思いました。（中略）

プロレタリアと云うハイカラ語をつかう前に、私は長い三等の汽車旅で、随分人のいい貧乏人たちを沢山見過ぎて来ました。さて、これから巴里の生活です。お天陽様、お見捨てなく！ 私はまだまだこれから、どこまでも遠く旅を続けるか知れないのです。

（林芙美子『下駄で歩いた巴里』一九三三年）

（小島英俊『旅する漱石と近代交通』による）

注

*満鉄——南満州鉄道株式会社の略称。一九〇五年（明治三八）のポーツマス条約によってロシアから譲渡された利権に基づき設立。日本の国策会社として、満州に大きな勢力を築いた。

*一等船室——最も設備やサービスがよい、最上級の船室。これに対し、「三等船室」は最下級の船室をいう。一等／三等の区別は鉄道も同様。

*『放浪記』——一九二八年（昭和三）に発表された林芙美子の小説。単行本はベストセラーとなった。社会の底辺を流浪する少女の貧苦の生活を描いた自伝的作品。

*内地——当時、海外の植民地を外地と称したのに対し、日本本国を内地と呼んだ。

*南京米——東南アジアや中国などからの輸入米。国産米より劣るというイメージがあった。

*こうりゃん——中国東北部で栽培されるモロコシの一種。

*展望車——列車の最後部に連結された、展望台（手すりを設けたデッキ）をもつ客車。乗客はそのデッキに出て、沿線の景色を楽しむことができた。

*新しい大きな東京駅ができる直前の頃——東京駅が開業したのは一九一四年（大正三）。それ以前の東海道線の終着は新橋駅であった。

*無産者——無産階級に属する人。プロレタリア。資本家（金持ち）をブルジョアと呼ぶのに対し、労働者（貧乏人）をいう。

なお、問題文中の歴史的表現はなるべく尊重したが、表記の不統一や今日から見てふさわしくないとと思われるものについては変更した箇所がある。

問1 傍線ア、エの漢字の読みを平仮名で書きなさい。↓解答用紙はB

ア 琴線 イ 欄干 ウ 口調 エ 朗（らかな）

問2 傍線a「衆寡敵せず」とは、少人数では多人数に勝てないという意味である。ここでは具体的にどういうことをいうのか。

これを説明した次の文の空欄甲・乙に当てはまる内容を、それぞれ甲は二〇字以内、乙は三〇字以内で記述しなさい。（句読点等も一字と数える）↓解答用紙はB

中村是公の呼び方について、漱石は本来なら

甲

したいのだが、今は

乙

ということ。

問3 傍線b「二人とも乗船した大阪から大連に渡る連絡船の船中の描写の違い」とあるが、ここにいう「描写の違い」の説明と

してもっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。なお、傍線bの直後に「前出した」云々とあるが、「前出」とは【A文】の箇所をさす。↓解答用紙はA、番号は1

① 漱石が船中で感じた戸惑いを自己分析しながら描いているのに対し、芙美子は乗客たちへの違和感をありのままに描いている。

② 漱石が一等船室の豪華さをさりげなく知的に描いているのに対し、芙美子は金銭的に貧しい船旅であることを率直かつ大胆に描いている。

③ 漱石が渡船以降の出来事を説明的に描いているのに対し、芙美子は船中の見聞ではなく自分の空想だけを感性豊かに描いている。

④ 漱石が船内で直面した思いがけない事態を主観的に描いているのに対し、芙美子は船内の薄汚れた情景を冷静に観察して描いている。

⑤ 漱石が船中での思いを筋が通るように描いているのに対し、芙美子は乗客や事物を点出することで実感が自ずと伝わるように描いている。

問4

傍線c「食堂車の情景を実にうまく表現している」とあるが、「食堂車の情景」はどのように「表現」されているのか、その説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。↓**解答用紙はA、番号は2**

- ① 広大な大地に沈む夕陽を背景に、その夕陽に照らされた食堂車の雰囲気、接客係の女性の腕の産毛の輝きで表現している。
- ② 満州の大自然のイメージと重ねながら、食堂車のささやかな人間的雰囲気を、愛らしい女性の姿として表現している。
- ③ ロシア人女性のむきだしの白い腕に注目することで、食堂車全体の雰囲気を、満州の大地から切り離して表現している。
- ④ 赤く燃える風景とは対照的に、接客係の女性の腕の産毛を金色に光ると描くことで、食堂車の雰囲気を幻想的に表現している。

⑤ 接客係の女性の腕の産毛という部分的な事象によって、食堂車の雰囲気だけでなく、彼女の優しさも伝わるように表現している。

問5

傍線d「清顕は追われるように汽車を降りた」とあるが、この場面の清顕の心情に即して「追われるように」を言い換えた表現としてもっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。↓**解答用紙はA、番号は3**

- ① 息せき切りながら
- ② 背中に羽が生えたように
- ③ 後ろ髪を引かれながら
- ④ 明鏡止水の境地で
- ⑤ 腸が煮え返る思いで

問6 傍線 e「時ならぬ薄暮が立ちこめた」とあるが、ここにいう「時ならぬ薄暮」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤

のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。↓解答用紙は A、番号は 4

- ① 思いがけない煤煙で、夜の闇に時間が戻ったようだという事。
- ② すでに薄暗い時刻だが、煤煙がいつそう辺りを暗くしたということ。
- ③ 時を超えた何かを象徴するように、煤煙が渦を巻いているということ。
- ④ 夕暮れ時の煙のように、煤煙がホームの上空にたなびいているということ。
- ⑤ 煤煙によって、まだ朝なのに夕暮れのように薄暗いということ。

問7 空欄 fに入れるのにもっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。↓解答用紙は A、

番号は 5

- ① 貧しくても人並みに旅愁はある
- ② 庶民はどこでも同じである
- ③ 国際列車の乗客は陽気な人が多い
- ④ 人間は貧富の差を超えて連帯できる
- ⑤ 社会思想の概念は普遍的である

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「まなぶ」ことは「まねぶ」ことだ。じつさい、このふたつの言葉は語源が同じだ。学ぶことは多くの場合、まねることから始まる。意味もわからずに、ただひたすら師匠の所作をまねる。どの動きが重要で、どの動きが関係ないかもわからずに、ただただ同じ動きをする。それはときに「猿まね」と言われてバカにされる。茶道の先生が茶碗を回すと、生徒は同じように茶碗を回すが、先生がふと手を頭にやると、同じように手を頭にやる。それは思わず吹き出してしまうほど、滑稽でさえある。しかし、学^Aぶことは多くの場合、このような滑稽ですらある猿まねから始まらざるをえないのである。①

たしかに猿まねをしないで、所作を習得することが可能な場合もある。ひとつの所作が誰にでも可能ないくつかの要素に分解できるなら、それらの要素を順に実行することで、その所作を行うことができる。「花」という漢字を書くことは、どのカク^①をどの順に書くかを知れば、この字を書くことができるようになる。先生がこの字を書くのを見て、それを猿まねする必要はない。②

しかし、私たちが学ぶ多くの所作は、このような要素への分解を許さない。逆上がり、包丁での皮むき、テニスでのボールの打ち方など、多くの所作は、要素的な動きの組み合わせになっておらず、見よう見まねで学んでいくしかない。もちろん、そのような所作もいくつかの部分的な動きに分けることは可能であるが、これらの部分的な動きはその所作を行うたびに微妙に異なり、まったく同じというわけではない。自転車に乗ることは、サドルにまたがる、ペダルを踏む、左右のバランスをとるなど、いくつかの部分に分けられるが、それらはいつ自転車に乗ってもまったく同じというわけではない。乗るたびに微妙に異なる。同じ要素を組み合わせさえすれば、自転車に乗ることができるようになるというわけではないのである。③

このように要素に分解できない所作は、全体を猿まねして習得するしかない。それはたいへん困難な作業であるが、それをやらざるをえない。学習の第一歩として、とにかく模倣は非常に重要である。動物にも模倣の能力があるが、人間はとくにこの能力に長^たけている。人はやたらと物まねをしようとする。遊ぶときでさえ、物まねをすることがある。④

模倣に関連して、一九九〇年代の初めに、興味深いニューロンが発見された。「ミラーニューロン」だ。それはマカクザルの脳のF5野という部位から、J・リゾラッティらの研究グループが発見したものである（その後、人間の脳にも、サルのF5野に^②ソウトウする部位に、このニューロンがあることが確認されている）。ミラーニューロンは、X、サルが食べ物をつかむときに活性化するだけでなく、実験者がその同じ行動をするのをサルが見たときにも活性化する。これは、実験者が食べ物をつかむのをサルが見たとき、サルは潜在的に（つまり頭のなかで）その同じ行動をすることを意味する。⑥

もちろん、このミラーニューロンは動作の模倣を可能にして、その動作を行う能力を獲得させるものではない。サルはみずから食べ物をつかむことができるからこそ、実験者が食べ物をつかむのを見ると、ミラーニューロンが活性化して、潜在的に食べ物をつかむという動作ができるのである。⑦

したがって、これまで自分できなかった動作がミラーニューロンによってすぐ模倣できるようになるというわけではない。もしそうであれば、どんな動作もミラーニューロンによって立ちどころに模倣できることになる。しかし、そう簡単にはいかない。やはり、模倣できるようになるには、何度も試行錯誤を重ね、反復練習をせざるをえない。⑧

それでも、ミラーニューロンは模倣ができるようになるのに一役買っているかもしれないと考えられよう。サルが自分ではまだ食べ物をつかむことができないときでも、実験者が食べ物をつかむのを見れば、ミラーニューロンが活性化して、それによって潜在的に食べ物をつかもうとするだろう。もちろん、すぐにはその行動を模倣できないが、それでもとにかくそうしようと試みる。しかも、この場合は、たんに潜在的に食べ物をつかもうとするだけではなく、むしろ顕在的に、つまりじっさいに手を動かして食べ物をつかもうとするだろう。ミラーニューロンの活性化はこのような顕在的な試行錯誤の学習を引き起こし、この学習を経て、サルはやがてその行動を模倣できるようになる。ミラーニューロンはこのように模倣の学習を促すという重要な役割を担っているかもしれないのである。

^C話を戻すと、きちんとまねができるようになるには、とにかく試行錯誤を重ねるしかない。しかし、やみくもに試行錯誤を重ね

るだけでは、まねの習得ですらおぼつかない。師匠の技を見てそのまねをしようとするとき、それがうまくいったかどうかともわからずに、ただまねっぽいことを繰り返すだけでは、おそらくまねの習得は不可能であろう。まねができるようになるには、試しにやってみたことがうまくいったかどうかがわからなければならぬ。それがわかれば、うまくいったときのまねは強化され、そうでないまねは抑制されて、やがてきちんとまねができるようになる。

では、試しにやってみたまねがうまくいったかどうかは、どのようにしてわかるのだろうか。じっさいにまねをしてみたとき、うまくいけば、何となく快い感じがし、そうでないときは、ぎこちなく不快な感じがすることがある、このように快／不快が生じる場合は、それが良し悪しを示す信号になる。この信号にもとづいて、快く感じるまねは強化され、不快に感じるまねは抑制される。

Y、試しにやってみたときに快／不快の感じがまったく生じない場合もある。たとえば、体育の先生のまねをして逆上がりの練習をしているとき、うまくいくかどうかにかかわらず、心地よいとも、心地悪いとも感じないでしょう。このような場合は、先生に良し悪しの判断をもらうしかない。つまり、うまくいったときは、先生が誉め、そうでないときは、注意する。このような外からの指摘にもとづいて、称賛されたまねは強化され、^③シッセキされたまねは抑制される。

このように試しにやってみたことにたいする良し悪しの信号や指摘があれば、ふつうまねの学習はよく進む。しかし、そのような信号や指摘があっても、まねの学習が容易に進まない場合もある。それは多くの部分からなる複雑な技をまねようとする場合である。このような技をまねようとすれば、当然、そのまねも多くの部分からなる。**Z**、全体としてうまくいかなかった

ことがわかって、どの部分が悪かったのがよくわからないことがある。そうすると、ただやみくもにどこかの部分を変更して、新たなまねを試みるよりほかなくなる。そうすると、悪い部分はそのまま、良い部分が変更されるということにもなりかねない。こうなってくると、学習がなかなか進まないことは、容易にわかるだろう。

たとえば、テニスの練習の場面を想像してみよう。いま、ラケットでボールを打つという動作が、かりにラケットの面の角度、打つ強さ、ラケットの振りぬきという三つの部分からなるでしょう。ボールがうまく打てなかったとき、その原因は三つの部分の

いずれか、あるいはそれらの組み合わせにある。しかし、うまく打てなかったという動作全体の悪さしか感じ取れないとすると、どの部分が悪いかがわからず、やった動作を修正しようとしても、ただやみくもに三つの部分のいずれかに変更を加えることしかできない。しかし、動作全体の悪さだけではなく、それぞれの部分の良し悪しも感じ取れるとすると、悪い部分を変更して良い部分をそのままにすることが可能となり、学習の効率はオオハバに上がる^④。

複雑な技をまねる場合は、全体の良し悪しだけではなく、各部分の良し悪しも感じ取れることが望ましい。それが感じ取れれば、複雑な技であっても、Dの学習は効率的に進む。そうでなければ、学習は困難をきわめる。先生から指摘を受ける場合でも、どこが良く、どこが悪いかを言ってもらえず、ただ全体として良い、悪いと言われるだけでは、学習はなかなか進まない。もっとも、先生のほうも、けっして意地悪なわけではなく、技をいくつかの部分にうまく分けることができないため、全体として評価するほかないのかもしれない。このような場合は、先生の技をまねるのに何年もかかるのも致し方ないことであろう。

(信原幸弘『覚える』と『わかる』 知の仕組みとその可能性』による)

問1 傍線①～④のカタカナを漢字に直しなさい。↓解答用紙はB

- ① カク ② ソウトウ ③ シッセキ ④ オオハバ

問2 空欄X、Y、Zに入れるのにもっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(ただし、同じものを繰り返し用いてはならない) ↓解答用紙はA、番号はXは6、Yは7、Zは8

- ① したがって ② たとえば ③ なぜなら ④ すると ⑤ しかし

問3

傍線A「学ぶことは多くの場合、このような滑稽ですらある猿まねから始まらざるをえないのである」とあるが、筆者がどのように考える理由として、もっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。↓**解答用紙はA、番号は9**

- ① 私たちが学ぶ多くの所作は、誰でも行うことができる要素に分解できないから。
- ② 師匠の技は、手本を見て、それを理解することしか獲得することができないものであるから。
- ③ 猿まねは、人間に元々備わっている能力であり、唯一の学習方法であるから。
- ④ 学ぶことは、楽しさを実感でき、物事をやり遂げた達成感を得ることにつながるから。
- ⑤ 所作の習得にあたっては、所作が再現できたかどうかが重要であるから。

問4

傍線B「二役買っているかもしれないと考えられよう」とあるが、筆者は、ここでは、どのような点で「二役買っているかもしれない」と考えているのか。それを説明した次の文の空欄を四〇字以内で埋めなさい。(句読点等も一字と数える) ↓**解答用紙はB**

ミラーニューロンの働きによって、

という点。

問5

傍線C「話を戻すと、きちんとまねができるようになるには、とにかく試行錯誤を重ねるしかない」とあるが、傍線部の内容を考えると、どの段落に戻すことになるか。次の①～⑦のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。↓**解答用紙はA、番号は10**

- ① a
- ② b
- ③ c
- ④ d
- ⑤ e
- ⑥ f
- ⑦ g

問 6 空欄Dを埋めるのに、もっとも適切な漢字二字の語を本文中から抜き出しなさい。↓解答用紙はB

問 7 本文の内容にもっとも合致しているものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。↓解答用紙はA、
番号は11

- ① スポーツ、習い事などを通じて習得される技術は、万人皆が習得可能なものである。
- ② 一度身につけたことは、反復することにより確実に身につくので、練習する習慣を確立することが大切である。
- ③ 理解したことを実際の行動に移すには、努力と行動しようとする意欲が必要である。
- ④ 学習には、試みた結果や他者からの指摘だけでは成果を把握しにくいものもある。
- ⑤ 脳にはまねる行動を可能にする働きがあるので、まねる行為は、それを活用することで容易に行うことができる。

【三】 次の文章は、南都（東大寺・興福寺）焼き討ちの罪を問われ、後に処刑されることになる三位中将平重衡が、連行される途中、

北の方である大納言佐の住まいに立ち寄る場面を描いている。よく読んで、後の問いに答えなさい。

三位中将、守護の武士にのたまひけるは、「この程、事にふれてなさけふかう芳心おはしつるこそ、ありがたううれしけれ。同じくは最後に芳恩かうぶりたき事あり。我は一人の子なければ、この世に思ひおく事なきに、年来あひ具したりし女房の、日野といふ所にありと聞く。いま一度対面して、^①後生の事を申しおかばやと思ふなり」とて、片時のいとまをこはれけり。武士ども、さすが岩木ならねば、おのおの涙を流しつつ、「^Cなにかはくるしう候ふべき」とてゆるし奉る。中将なのめならず悦んで、「大納言佐殿の御局は、^①これにわたらせ給ひ候ふやらん。本三位中将殿の、只今奈良へ御とほり候ふが、立ちながら見参に入らばやと仰せ候ふ」と、人を入れて言はせければ、北の方聞きもあへず、「いづらやいづら」とてはしり出でて、見給へば、^D藍摺の直垂に折烏帽子着たる男の、やせ黒みたるが、縁に寄りゐたるぞ、そなりける。北の方御簾のきはちかく寄つて、「いかに、夢かやうつつか。これへ入り給へ」とのたまひける御声を聞き給ふに、^③いつしか先立つ物は涙なり。大納言佐殿、目もくれ、心も消えはてて、しばしは物ものたまはず。三位中将、御簾うちかづいて、泣く泣くのたまひけるは、「こそぞの春、^{*}一の谷でいかにもなるべかりし身の、せめての罪のむくいにや、いきながらとらはれて、大路をわたされ、京、鎌倉、恥をさらすだに口惜しきに、はては奈良の大衆の手へわたされて、きらるべしとてまかり候ふ。いかにもして今一度御すがたを見奉らばやと思ひつるに、今は露ばかりも思ひおく事なし。出家して、形見にかみをも奉らばやと思へども、ゆるされなければ力及ばず」とて、^F額のかみをすこしひきわけて、口のおよぶ所をくひきつて、「これを形見に御覧ぜよ」とて奉り給ふ。北の方は、日来おぼつかなくおぼしけるより、今一しほかなしみの色をぞまし給ふ。「まことに別れ奉りし後は、^⑤越前三位の上の様に、^H水の底にも沈むべかりしが、まさしうこの世におはせぬ人とも聞かざりしかば、もし不思議にて、今一度かはらぬすがたを見もし見えもやすると思ひてこそ、うきながら今までもながらへてありつるに、けふを限りにておはせんずらんかなしさよ。今までのびつるは、^Iもしやと思ふたのみもありつる物を」とて、昔

今の事どものたまひかはすにつけても、ただ尽きせぬ物は涙なり。「あまりに御すがたのしをれて候ふに、奉りかへよ」⁽⁴⁾とて、あはせの小袖に浄衣じやうえを出だされたりければ、三位中将これを着かへて、もと着給へる物どもをば、「形見に御覽ぜよ」とておかれけり。

(『平家物語』による)

注 * 本三位中将——三位中将に同じ。平重衡。

* 一の谷——神戸市須磨区の地名。源平の合戦の戦場。

* 越前三位の上——平通盛の妻小宰相。一の谷の合戦で通盛が戦死した後入水した。

問1

傍線A「後生の事」・B「さすが岩木ならねば」の文中の意味としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。↓**解答用紙はA、番号はAは12、Bは13**

A 「後生の事」

- ① 前世でめぐりあったこと
- ② 来世への不安
- ③ 財産の分配
- ④ 死後の供養の仕方
- ⑤ 生まれ変わって成し遂げたいこと

B 「さすが岩木ならねば」

- ① そうは言っても感情のない岩や木ではないので
- ② そうは言っても立派な岩や木とは違うので
- ③ 評判通り感情のない岩や木のようににはできないので
- ④ 評判通り立派な岩や木のようににはできないので
- ⑤ 期待通り感情のない岩や木同然でいなければならないので

問2

傍線C「なにかはくるしう候ふべき」・傍線D「見参に入らばやと仰せ候ふ」を現代語訳しなさい。↓**解答用紙はB**

問3

波線(1)「これにわたらせ給ひ候ふ」、(2)「言はせけれ」、(3)「聞き給ふ」、(4)「奉りかへよ」は誰の動作・状態か。もっとも適切な組み合わせを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。↓**解答用紙はA、番号は14**

- ① (1) 北の方 (2) 三位中将 (3) 三位中将 (4) 北の方
- ② (1) 三位中将 (2) 北の方 (3) 北の方 (4) 北の方
- ③ (1) 北の方 (2) 北の方 (3) 三位中将 (4) 三位中将
- ④ (1) 三位中将 (2) 三位中将 (3) 北の方 (4) 北の方
- ⑤ (1) 北の方 (2) 三位中将 (3) 三位中将 (4) 三位中将

問4

傍線E「いかにもなるべかりし身」とあるが、誰がどうなるはずだったことを言っているのか。もっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。↓**解答用紙はA、番号は15**

- ① 大納言佐が後を追って死んでしまう
- ② 大納言佐が悲しみで死んでしまう
- ③ 三位中将が討ち死にする
- ④ 平家一門が逃げのびる
- ⑤ 平家一門が滅びる

問5 傍線F「□のおよぶ所をくひきつて」とあるが、誰がどのようなことをしようとしたのか。もっとも適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。↓解答用紙はA、番号は16

① 三位中将が、自分の髪の毛を食いちぎって出家の覚悟を示し、命に未練がないことを表そうとした。

② 大納言佐が、自分の髪の毛を食いちぎって出家の覚悟を示し、夫の助命を願おうとした。

③ 三位中将が、妻の髪の毛を食いちぎり、この先の道中、身につけて行こうとした。

④ 大納言佐が、夫の髪の毛を食いちぎり、子への形見に残そうとした。

⑤ 三位中将が、自分の髪の毛を食いちぎり、妻への形見に残そうとした。

問6 傍線G「まさしうこの世におはせぬ人とも聞かざりしかば」とはどのような意味か。もっとも適切なものを、次の①～⑤の

中から一つ選び、その番号をマークしなさい。↓解答用紙はA、番号は17

① まちがいなく亡くなった本人だと情報を確認できなかったので

② まちがいなく亡くなったとの情報を聞かなければ

③ まちがいなく姿を消したとの情報を聞かなければ

④ 確かに亡くなったとの情報を聞かなかったので

⑤ 確かに姿を消したとの情報を聞かなかったので

問7 傍線H「見もし見えもやする」とはどのようなことか。もっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を

マークしなさい。↓解答用紙はA、番号は18

- ① 大納言佐が敵の姿を見たり、敵に姿を見られたりすること
- ② 三位中将が敵の姿を見たり、敵に姿を見られたりすること
- ③ 大納言佐が三位中将を見たり、三位中将に見られたりすること
- ④ 三位中将が大納言佐を見たり、大納言佐に見られたりすること
- ⑤ 三位中将が敵に姿を見られたり、大納言佐にかくまわれているのに気づかれたりすること

問8 傍線I「もしやと思ふたのみ」とはどのような内容か。もっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を

マークしなさい。↓解答用紙はA、番号は19

- ① 三位中将が殺されずに済むかもしれないとの期待
- ② 三位中将がわが子に会いに来てくれるかもしれないとの期待
- ③ 大納言佐がもう一度わが子に会えるかもしれないとの期待
- ④ 大納言佐が三位中将の手助けをできるかもしれないとの期待
- ⑤ 三位中将が守護の武士に見逃してもらえないとの期待

問9 二重傍線「あひ具したりし女房」と、文法上同じものを、二重傍線①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

↓解答用紙はA、番号は20

